

# 酒々井町郷土研究会々報

第67号

平成5年1月1日発行  
酒々井町郷土研究会  
編集部

## 年頭にあたって

会田秀雄

明けましておめでとぅござい  
ます。

一陽来福とともに天地の万物  
はみな新たになり、山川草木す  
べてが陽春の気をうけ、芽ば  
えを持ちわびる準備をととのえ  
ていることでしょう。会員の皆  
様もつつがなく平成五年の新春  
をお迎えのことと存じます。

旧年中は多忙に明け暮れた早  
い一年でした。その駆け足で去  
って行った一年の間、県内外の  
見学会、東京名勝探訪等各種行  
事を無事終えることが出来まし  
たのは、ひとえに皆様方のご協  
力によるものと深く感謝申し上  
げる次第です。十一月に行われ  
ました生涯学習フェスティバル  
参加による「ミニミニ資料館」  
は、皆様のお陰で盛會裡に終了

出来ました。重ねて御礼申し上  
げます。なお昨年より懸業であ  
りました機構改革の骨子がまと  
まり、また役員改選もあり皆様  
のご期待にそえるものと思いま

## 迎春

### 平成五年元旦



す。今年は一層の充実すべき年  
でありたいと願っております。  
それにはなんと願っても会員の  
皆様のお力添えが必要です。会  
に對するより一層のご協力を心  
からお願いたします。  
皆様にとって良い年でありま  
すよう祈念して年始のご挨拶と  
いたします。

## 年頭あいさつ

青木朝次

平成五年明けましておめでと  
うございませす。

「歳月人を待たず」とか「光  
陰矢の如し」とか日日の移り変  
わりは早く昭和天皇が入院され  
て各種の催物等を  
自粛して御快癒を  
祈ってから早や四  
年余、私も古来希  
なりといわれた古  
希を迎え、正月は  
冥土の旅の一里塚  
めでたくもありめ  
でたくもなしの  
心情が判って来ま  
した。

二十年程前にオイルショック  
と呼ばれる騒ぎがありました。  
あれは大阪商人が一部の商品の  
買めと売惜しみが原因で各地  
の商人がこれに便乗し、一般の  
人が踊らされたものであるが、  
今回のバブル崩壊は誰が仕組ん  
だものか？、自然現象にしては  
余りにも急激な変化で、給料生

活者は鬼も角として自営業者は  
かなりの打撃を受けているよう  
です。其のさ中、我等の酒々井  
町郷土研究会もマンネリ化する  
運営に新風を吹きこまんとして  
役職・機構を改革して、平成五  
年度に向かわんとしている。其  
の成否は結果論であるが、成  
を目標して努力するものであり  
「否」と出ても悲観することな  
く、老年組から青年層へと政権  
が移り、若い人達が懸命に頑張  
っているのです。其の意欲を多  
として、御協力を賜り度くお願  
いいたします。

そして皆さん「郷土研究会に  
入って良かったなあ。長生きさ  
して良かったなあ」と、最後  
の最後に思えるような生き方を  
しようではありませんか。

### 謹賀新年

本年もよろしく  
お願い申し  
上げます

平成五年

元旦

酒々井町郷土研究会  
運営委員一同



文化展に思う

平山 正一

十一月五日から四日間、生涯学習「エスティブル参加の「文化展」が酒々井町郷土研究会のみなさんにより開かれ、酒々井町の民俗資料や化石が展示された。

私も縁あって「鯨の化石」の展示のお手伝いをした。この化石は宅地開発が進められていた昭和五十年に現在の東酒々井五丁目の「クジラ公園」の近くで当時中学三年生だった押尾誠二氏により宅地造成中のがケで発見され、千葉大学大原隆先生の御指導で発掘されたものです。それを記念して「クジラ公園」という公園名がつけられ、公園入口に石碑が建たられ、次のような碑文が刻まれています。

「今から十五万年前この付近は古東京湾といわれた大海原で、湾口は九十九里・鹿島灘方面に大きく開いていました。そのころはこのあたりにも数多くの鯨が生息していました。この東し

すい住宅団地を造成中に標高十六メートルの地点で当時の鯨の骨が発掘されました。ここにその発掘を記念し碑を建て太古のしるぶよすがといたします。」

私達の今住んでいるこの酒々井町が海底だった証として貴重な「鯨の化石」といえます。一方酒々井字西井戸にはいろいろな貝殻のギッシリつまった貝層があります。「上岩橋貝層」と

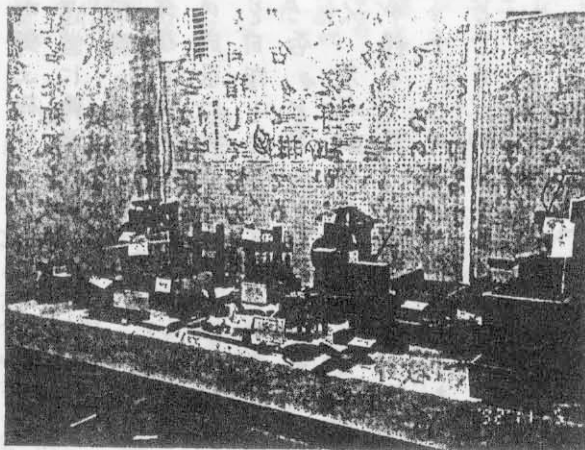
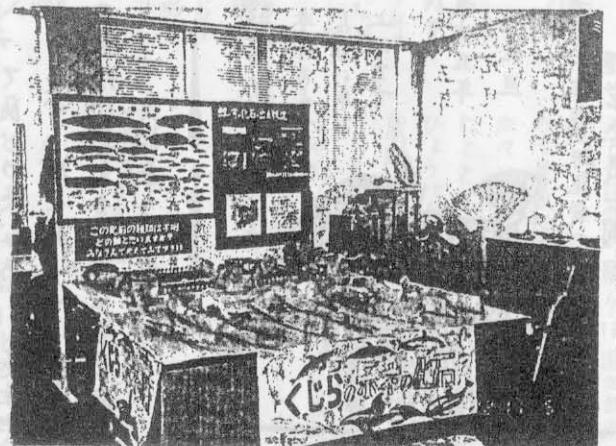
いわれ、千葉県天然記念物に指定されています。この貝は鯨の泳いでいた頃の海底に棲んでいたものです。百種以上の貝の種類がわがっています。これらの貝の種類などから当時の海は浅く、現在の千葉県海よりやや寒い東北地方の海(寒流系)の水温だったといわれています。このような貝層は酒々井町の各所や隣の印旛村や佐倉市などがケでたくさんみられます。人の住む以前の遠い過去を物語る大切な証拠です。

郷土研究会の会長さんに案内され、酒々井小学校のプレハブ倉庫内(体育倉庫兼用)に保存されていた鯨の化石を見た時の状況は大変な驚きでした。貝層

の貝と異なり二度と発見される可能性の殆んどない大切な、大きくいえば酒々井町の財産ともいえる化石がこれかかった七夕の無い大きな木箱(長もち)に入れられ、ほこりをかぶり、児童等により破砕された状況でした。倉庫でみせて載せてから可能なかぎり修復して文化展に展示しました。化石をもとに地球の歴史を学ぶ私にとってこのお手伝いは大変楽しいものでした。今後は教育委員会の御努力でガラスケースにおさめられ大切に保存されると聞き喜んで

います。鯨の化石以外にも多くの民俗資料を見せて戴きました。印旛沼を中心にした私達の先祖の営々と努力した生活の姿をまざまざと見せてくれる遺産でした。これらも大切に保存されると聞いております。

この度の文化展は、文化遺産に目を向ける大切な機会となつたと思います。郷土研究会のみなさんの発想の良さと努力に敬意を表し、一層の充実発展を祈ります。





牛久方面を訪ねて

増川 愛子

爽やかな晩秋の一日、バスは公民館を出発して一路利根川を渡って茨城県へ入りました。まずは昔猪場町として発展したという取手の長禪寺へ。平将門の創建になると伝えられるこのお寺には、由緒ある沢山の観世音像が祀られ、日本の歴史の一端をうかがえる思いです。

窓外に田園風景が広がる中、バスは伊那町の間宮林蔵の生家へ着きました。ここは茅葺きの家が再現されていて、幕末時代の有名な探検家を偲ばせる貴重な品を見ることが出来ました。さあ、私共期待の牛久シャトルへ到着です。門を入ると多くの緑に囲まれた赤レンガの建物は、ワインの殿堂にふさわしい堂々とした構えを見せ、門外の前方には葡萄園が広がり、何かロマンチックな雰囲気があふれています。ここは明治三十六年日本で初めてのワイナリーとして建てられたものだそうです。さあ、中に入っていよいよ待望のバー

ベキューです。五人でジンギスカン鍋を囲み、ワインを頂きながらの味わいは又格別で、そのおいしかったこと、心地よい満足感に浸りました。おみやげを手に園内を歩きましたが、この主な見学場所としてワイン資料館があり、牛久シャトルの歴史を偲ばせる物が多く飾られています。

牛久大仏は、まだ公開されていませんがバスを降りて拝観させて頂くことが出来ました。高さ一ニ〇メートルもある阿弥陀如来様のお姿が間近くせまり、その巨大さに圧倒されましたがその慈悲深いお顔は私共に幸福と平和を与えて下さっているように心が洗われる思いになりました。

帰りのバスは程よい暖かさの中、後のコーラス部の方々の素晴らしい歌声にうっとり聞き入るうち、バスは夕暮迫る酒々井町へ着きました。

キャンセル待ちで入れて頂いた私ですが補助席に代る代る坐って下さり、その温みに感謝しながら楽しい一日を過ごすことができました。有難うございました。

生涯学習フェスティバル「文化展」報告

平成四年十一月五日から八日までの四日間、「ミニミニ資料館」を開設「酒々井町の化石と民具」と題して文化展を開催いたしました。

当初企画したものの如何に実行出来るのか雲の中の思いがしておりましたが、お陰さまで郷土研究会としての大イベントは好評のうちに終了出来ました。

これもひとえにご多忙の中、沢山の皆様のご協力の賜と深く感謝と御礼申し上げます。ことに平山先生には、鯨の化石の修復に大変なお骨折りを賜り、イベントの大きいイメージ作りに計りしれないご寄与をいただきました。このことは、郷土研究会として感謝にたえません。有難うございました。

また、「酒々井町郷土資料館設立要望署名簿」につきましては、大勢の方々のご理解とご署名を頂き有難うございました。お陰をもちまして千二百名の方の署名をいただくことが出来、十二月三日、申請代表者として

会田秀雄、青木朝次、田村直子、玉井旭四氏の署名捺印された申請書に署名簿五冊を添え、教育委員会を通じ、酒々井町長に提出要望をいたしました。文化展の経費については次のようにになりましたので報告します。

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
文化展費	100,000	文具費	8,464
寄付金	15,000	写真フィルム代	4,100
		コピー代	665
		おしるい店経費	41,474
		食費	24,360
計	115,000	計	79,063

差引 収入 115,000 - 支出 79,063 = 残高 35,937 (残高は郷土研会計に繰入)

麻布騒動

森島照子

九州から来た私は、東京と聞いただけでワクワクします。

これは、九月二十四日の名勝探訪「麻布大使館めぐり」でのことです。この日のメインであるパキスタン大使館に近づくと、社々には沢山のおまわりさん達が溢れています。一体どうしたことがあるかと思えば、途中にこのところ毎日ニュースになっている。あの金丸邸があるとのこと。警備陣を通り抜け通る責任者として、どうしてもここを通らなければならぬという我が会長さんの押し問答になりました。みんな声にならない声で声援を送り、かたずを呑んで見守っている間にも時間は過ぎ、カッカッとなってメーターが上がり切ったところで、遂に会長さんの「天下の公道を通るのがどうしていけないのか」の喝が勝って通り抜けの許可が出ました。

二列になってよそ見をしないで静かにして通って下さいと言われ、多勢のマスコミ陣の前をカメラのフラッシュを浴びながら横目で金丸邸を見て通りました。こんな経験は二度と出来ないと思ふならば、興奮がおさまるまでした。あー、本当におもしろかった。

パキスタン大使館は特別に許可が出て、館内を丁寧に案内してもらいました。思ったより質素でした。

さて麻布はさすがに幕末以来の外交の街だけあって、表札になんと横文字の多いこと。居並ぶ立派なお屋敷は奥深く、きつと何人もお手伝



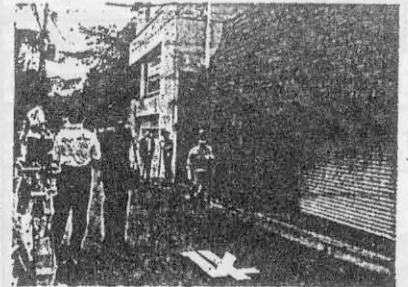
泉をかこんで一休みくんでもつきない果のようによもやまはながつづきます。どうぞあなたもお仲間

いさんがいて、私達の生活とは少々どころが大いに違うんじゃないかと思われる雰囲気でした。麻布山善福寺は空海創建の古刹で最初のアメリカ公使館のおかれたところですが、麻布七不思議のうちの「柳の井戸」「逆さイチョウ」があり、何と重みのあるお寺だなあと思われ頭が下がりました。

江戸時代からの老舗の並ぶ麻布十番街では、予約をしてももらっていたので、二時間待たないと買えないという元祖鯛焼をお土産にすることが出来ました。

「麻布の有名な鯛焼だけん、ありがたく食べんしゃいネ」と言って家族で仲よく食べながら、あの金丸邸の話をしてあげました。

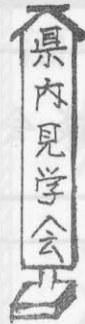
郷土研日誌		
月日	内容	10月~12月 参加人数
10/8	名勝探訪「谷中方面」	(23)
10/10	史談会「酒々井町の化石文化財」No.3	6
10/15	県外見学会(榎津大橋方面)A班	(34)
10/17	文化展についてお合わじ	6
10/17	文化展準備(写真撮り)	3
10/20	文化展運営委員会	19
10/27	文化展準備	12
10/29	文化展準備	8
11/4	文化展準備	21
11/5	11/5から11/8まで4日間「ミニミニ資料館」文化展	延 182
11/8	11/8 [酒々井町の化石と民具]	
11/9	文化展あと片付け	3
11/19	県外見学会「龍崎・牛久方面」	(55)
12/12	運営委員会	21
12/18	史談会「酒々井町の化石と文化財」No.4	9
12/18	名勝探訪「白金・目黒方面」	(31)
12/21	民俗資料の移転手伝い	8
12/28	会報発送	20
		461



「天下の公道を何故通さぬ」と問答の末金丸邸前を報道陣の中を闊歩しました。そのときの現場、金丸邸前のスナップです



見学案内



3/5(金) 3/9(火)

白子・九十九里方面

早春の九十九里海岸は波まだ高く、智恵子と遊んだ千鳥が群れる。その智恵子抄の碑のすぐそばの「アキラ健康センター」の砂ぼろを体験。浴衣を着て温度六〇度の砂に埋まると、たちまち体中から汗が噴き出し、海砂に含まれている「クローリイオン」を体内に吸収するため、筋肉疲労や肩こりに効くとのこと。砂ぼろの他、かぶり湯、泡沫湯などもあって近いところでの温泉気分。日頃の疲れをすっかくりフレッシュしましょう。

お昼は、いわし料理をいただきます。ゴレストロールを退治したら、「いわし博物館」では「いわし」のお勉強。いわし博士になつて帰ろうというヘルシースくめの一日です。



名勝探訪

1/8(日)

浅草方面

暑気分の抜けない折、遅ればせながら観音さまに初詣ですることにしました。

まず、許可を得なければ見学出来ない伝法院を訪れ、浅草の混雑が嘘のような庭園の散策をして頂いたあと、浅草寺にお参りします。一年間の健康と幸福を祈った後、浅草の味は庶民の味が中心の食事処、有名なめんぷら屋の大黒屋や、オレンジ通りからすしや通りにかけて食通街、すきなところまで昼食をとります。

午後には、花やしき、くに行きます。童心にかえって、みなさんで楽しんで下さい。大人だけの遊園地がほしい。大人だけの遊園地がほしい。

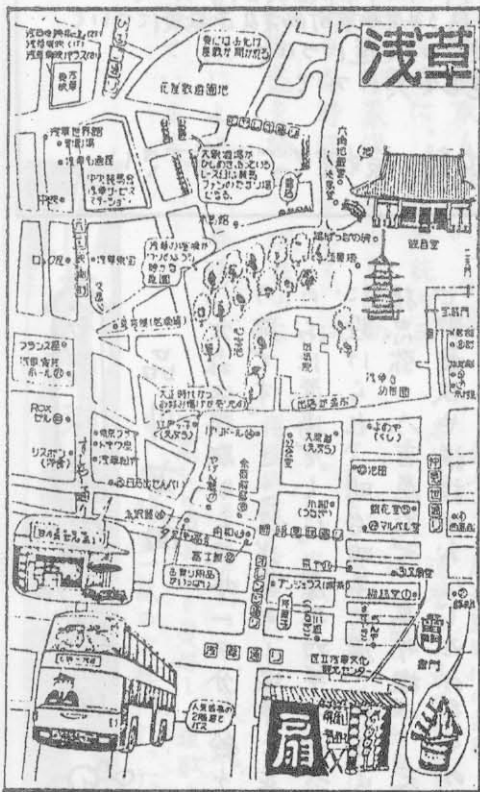
◎伝法院 浅草寺の総本坊で、正しくは伝法心院という。客殿玄關・使者の間・台所などは安永六年(一七七七)の建立。庭園は寛永年間(一六二四〜四四)小堀遠州作と伝える池泉回遊式庭園。至徳四年(一三八七)の鑄造の、至徳の鐘がある。

◎浅草寺 聖観音宗の総本山。

坂東第十三番札所。縁起によると、推古天皇の三六年(六二八)檜前浜成・竹成の兄弟が宮戸川(現在の隅田川の下流)で漁をしていた所、網に一丈八分(五、五センチ)の聖観音の黄金像がかかった。二人はこの像を持ちかえり、郷土土師直中知とともに、土師の私邸を寺として安置したのが起りで、この像が現在に伝わる本尊の秘仏です。

◎花やしき 嘉永六年(一八一三)四季の花木を植えたのに始まり、明治・大正時代には見世物小屋があつて人気を集めた花屋敷。今は小規模だが遊園地、花やしきとして親しまれている。入園料大人 四〇〇円。休園日は火曜日。

(浅草寺界限)



本郷方面会計報告		半久方面見学会会計報告	
10/15	収入 1800 <sup>円</sup> × 34 = 61,200 <sup>円</sup>	11/19	収入 5,500 <sup>円</sup> × 55 = 302,500 <sup>円</sup>
支出	バス代 10,300	支出	バス代 103,000
	チップ代 3,000		チップ 8,000
	高倉観音品布施 5,000		下見(ガソリン外) 4,168
	昼食弁当代 45,526		昼食代 113,300
	<u>463,826</u>		コピー代 2,493
			返金(1万円) 55,000
			<u>¥ 285,961</u>
収入 61,200 <sup>円</sup> - 支出 63,826 <sup>円</sup> = △2,626 <sup>円</sup> (不足)		収入 302,500 - 支出 285,961 = 16,539 (残金)	
不足額 2,626 <sup>円</sup> 郷土研より補足する。		残金 16,539 <sup>円</sup> を郷土研に繰入れ。	

郷土研行事業内

平成5年1月~3月

	1 月	2 月	3 月
史談会	休 日	13日(土) 午後1時30分 (No.5) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館・学習室	13日(土) 午後1時30分 (No.6) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館・学習室
野草の会 名勝探訪	18日(月) 京成酒々井駅集合8:25 <b>名勝探訪 浅草方面</b> 京成酒々井駅 → 浅草 伝法院 → 浅草寺・境内散策(昼食) → 花やしき遊園 → 都営浅草駅 → 京成酒々井駅 (入園料 400円) (雨天中止)	2日(火) 中央公民館講堂 11:30 会場受付 12:00 会食 <b>七草粥を食べる会</b> 会費 500円 (お手頃のため 9時調理室) 定員 80名 (申込日 1月31日 締会当日) (受付 午後1時ロビーで受付)	19日(金) 京成酒々井駅集合8:25 <b>名勝探訪 品川方面</b> 京成酒々井駅 → 泉岳寺駅 → 大森 海岸駅 10分 鈴ヶ森刑場跡・大経寺 10分 品川区立水族館 5分 大森 海岸駅 → 京成酒々井駅 (水族館入館料800円) (雨天中止)
県内 見学会	3月5日(金) A班 林 9日(火) B班 寿永 申込日=2月10日(水) 午前9時00分 申込場所=中央公民館ロビー 定員=各班 33名 費用=3,500円 キャンセル=実施日3日前まで 連絡先=会田秀雄宅 (TEL. ) ※ 申し込みは 各人申し込んで下さい。 (雨天でも実施)	白子・九十九里方面(集合 8:40 公民館) (コース) 酒々井町中央公民館 → 白子町営「アクア健康センター」(砂ぼろ体験) → 30国民宿舎「九十九里セント」(いわし料理の昼食) → 「いわし博物館」 → 酒々井 16:30 18:30	アクアハウスの入湯には 水着を着用します。 水着のある方は、ご持参下さい。 水着の無い方は 借り着あります 借代 300円 (個人負担)
平成5年 総 会	7月31日(日) 午後1時受付 午後1時30分開会 場所 酒々井町中央公民館 講堂 会費 年1000円(1月~12月) (当日 講堂入口で受け付けます) ※ 新入会 及び 脱会の方は受け付け ますのでお申し出て下さい。	議題 (1) 会則の一部改正について (2) 平成4年度事業報告及決算の承認について (3) 平成5年度事業計画案及予算案について (4) 役員改選について (5) 運営委員について 皆様お誘い合わせてご出席下さい。	

名勝探訪

品川方面

2/19 (金)



大森海岸駅から徒歩一〇分で鈴ヶ森刑場の跡です。ここは浅草の小塚原と並ぶ江戸のお仕置場でした。慶安四年(一六五二)に設けられ、明治四年に廃されるまで、丸播忠弥、八百屋お七、平井権八、天一坊など歌舞伎や講談でおなじみの多くの人達が処刑されました。現在は東海道が第一京浜国道と合流する所、車の行き交う場所、江戸の昔を偲びます。

一〇分も歩けば、品川区民公園の一角に開館間もない品川区立水族館があります。関東で初めての泳ぐ魚を見上げることできる長さ二〇メートルの海の散歩道を歩けば、ここはすっかり海の中。海や川の生き物に変身したかのような異空間体験です。ちよつと昔の童心にかえって楽しんで下さい。

あどがき



新年明けましておめでとうございませう。昨年は生涯学習フェスティバル文化展では資料館設立の為の署名にご協力いただきまして有難うございませう。又、裏方として多数の方々のご協力により、全会員が一体となり、楽しく終わらせる事ができ、一会員として嬉しく思いました。

見学会も毎回多数の方々に参加で終わりを迎えました。今年も又、たくさんの方々の参加があります様計画いたしておりますので、皆様よろしく願ひ致します。